



「繋」～ つなぐ ～

創立50周年の節目にあたり、これまでの伝統を大切にしながら、東宇治高校生であることに誇りを持ち、未来につなぐ人に育ってほしい。また、人と人とのつながりを大切に、協力しながら社会を明るくする人に育ってほしい。という願いをこめました。



京都府立
東宇治高等学校

第1学年 学年通信
第5号
令和5年10月6日

なぜ？

べんきょうは／なぜ しなくてはいけなくて／ひろった犬は／なぜ すてなくては いけないのかなあ

あの日 犬とわたしは 目があつた／目があえば カナブンでも毛虫でも 見すててはいけない／あれは 生き物の合図だから／だいて帰るあいだだけ 犬もわたしも わらつた／「せめて食べさせてから すてましょう」／と おとながいった／いけない それは断じてやさしさではない／愛ではない／—おなかをパンパンにふくらませて／しっぽをふっていた子犬よ！—その夜わたしは 世界じゅうと 他人になった

歯は／なぜ みがなくなてはいけなくて／ひろった犬は／なぜ すててはいけないのかなあ

工藤直子さんの「なぜ？」という詩を紹介しました。幼い子どものもつ純粋な疑問が素直に表現されたような詩です。そして、私たちも幼いころは素直に「なぜ？」と思う気持ちを持っていたし、その「なぜ？」に素直に向き合おうとしていたなあと考えてしまいます。次の詩、

手を のばしてみる／その手の 指さすむこうに／なにが あらわれるか……わからん

足を踏みだそうと 宙に浮かす／その足が 着地する世界は／わたしを どこに導くか……わからん

それが まったく わからんで／それが まったく わからんからこそ／まず 手をのばし 足を踏みだす

「わからん」が原動力

これも工藤直子さんの「わからん」という詩。幼い子または幼かった私たちが素朴に抱いていた疑問も、年齢を経るにしたがって少しずつ高度な疑問になっていったり、考えても考えても辿り着けないような抽象的な疑問になっていったりします。そして、私たちは「なぜ？」と思う気持ちに蓋をしてしまったりします。この詩では、そんな蓋をしてしまった「なぜ？」という疑問や「わからん」という諦めも、結局は自ら前へ進み、自分の手足で確かめるしかないというようなことが書かれています。

さて、では考えてみましょう。私たちは、なぜ、勉強しなくてはならないのでしょうか？高校生になった皆さんは学校で毎日のように勉強をしようと声をかけられます。私たち大人は、もっと勉強しておいたら良かったなあと反省したり、もっと勉強する時間が欲しいなあと今更考えたりもします。私たちって一体なぜ、勉強しなくてはならないのでしょうか？

工藤直子さんの詩を基準に考えてみると、きっとそれは、私たちの日常に「なぜ？」が無くならないから。「わからん」が多すぎるからということなのでしょう。「なぜ？」に「わからん」と蓋をしてしまったら、私たちの見える世界はそのまんま変化もしません。「なぜ？」に向かって手をのびし、足を踏みだすと新しい世界がひらけるかもしれない。でもまた、そこには「なぜ？」「わからん」が現れます。きっと私たちは生まれてから今までその繰り返しを生活しているのです。嫌々勉強するのではなく日常や授業の「なぜ？」に素直に触れようとする気持ちを持つてみるのが、実は自然と勉強と結びついているのではないのでしょうか。「なぜ？」「わからん」が勉強の原動力です。次の詩も工藤直子さんの「わたし？」という詩、

うれしいのも たのしいのも／「わたし」／いたいのも つらいのも／「わたし」／それを／泣くのも 笑うのも

「わたし」のやること／………だな

◆中間考査時間割

	10月13日(金)	10月16日(月)	10月17日(火)
8:40~8:50	SHR	SHR	SHR
1限 9:00~9:50	英語コミュニケーションⅠ	数学A	論理・表現Ⅰ
2限 10:05~10:55	化学基礎	現代国語・言語文化	歴史総合・公共
3限 11:10~12:00		1~6組 生物基礎	LHR

※保護者様へのお願い

※通常の「欠席連絡システム」は使用できません

お子様が、上記の3日間に体調不良等のやむを得ない事情により受験できない場合は、必ず事前(テスト開始前：8時～9時)の間に学校に電話で連絡をしていただきますようお願い申し上げます。

◆文化祭ギャラリー



当面の行事予定

10月24日(火) 体育祭 ※10月26日(木) 体育祭予備日

